

報道関係者各位

2018年10月10日

## 2018年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」 建設・住宅・不動産部門で8回連続9回目の1位を獲得

大東建託株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:熊切直美)は、公益社団法人日本証券アナリスト協会(以下、アナリスト協会)が実施する、2018年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定※」の建設・住宅・不動産部門において、8回連続9回目となる第1位を獲得しました。

※公益社団法人日本証券アナリスト協会が実施する制度で、企業のディスクロージャーの促進・向上を目的に1995年から継続。証券アナリストの立場から、企業のディスクロージャーの質、量、タイミング等の優劣を判断するための客観的な評価基準を策定し、これをもとに優良企業を選定。

### ■評価ポイント概要(選定結果通知資料より抜粋)

#### 1)経営陣のIR姿勢等(2位)

- 経営陣が四半期毎に説明会に出席し、アナリスト・投資家と対話する機会を設け、市場にメッセージを発信している
- IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができる
- 情報開示を後退させることなく、より積極的に行っている

#### 2)説明会等(1位)

- 説明会、短信および説明会資料等において、実績および計画を明記し、理解を深めるような十分な説明がされている
- 質疑に対する会社側の回答が十分満足できる
- 部門別の受注、利益率、売上げ見通し等が十分開示され、詳細で充実した説明会資料となっている
- 説明会資料にタイムリーで有用な話題が掲載されている

#### 3)フェア・ディスクロージャー(1位)

- 投資家にとって重要と判断される事項を迅速に開示している
- 説明会資料やデータが英語でも公平かつタイムリーに入手が可能である
- 説明会の音声配信、質疑応答要旨の開示により、十分な期間の視聴等が可能である
- 月次受注等の開示が充実している

#### 4)コーポレート・ガバナンス関連(1位)

- 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されている
- 資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されている

#### 5)自主的情報開示(2位)

- 賃貸住宅見学会等が開催されている
- マネジメント等の発言内容等が迅速かつ公平に開示されている

ディスクロージャー  
2018年度 優良企業



日本証券アナリスト協会  
The Securities Analysts Association of Japan

ディスクロージャー優良企業に贈られる  
「優良企業ロゴマーク」

#### (参考)大東建託のこれまでの順位

年度	順位
2018年度	第1位
2017年度	第1位
2015年度	第1位
2014年度	第1位
2013年度	第1位
2012年度	第1位
2010年度	第1位
2009年度	第1位
2008年度	第2位
2007年度	第3位
2006年度	第1位

※2011年度および2016年度は、建設・住宅・不動産部門での評価は休止

### ■表彰式の開催

本件に関する表彰式が、10月12日(金)17:30より経団連会館5階にて開催されます。

詳細は、アナリスト協会へお問い合わせください。<http://www.saa.or.jp/standards/disclosure/index.html>

<本件に関するお問い合わせ>

大東建託株式会社 広報部 広報CSR課 TEL:03-6718-9174